

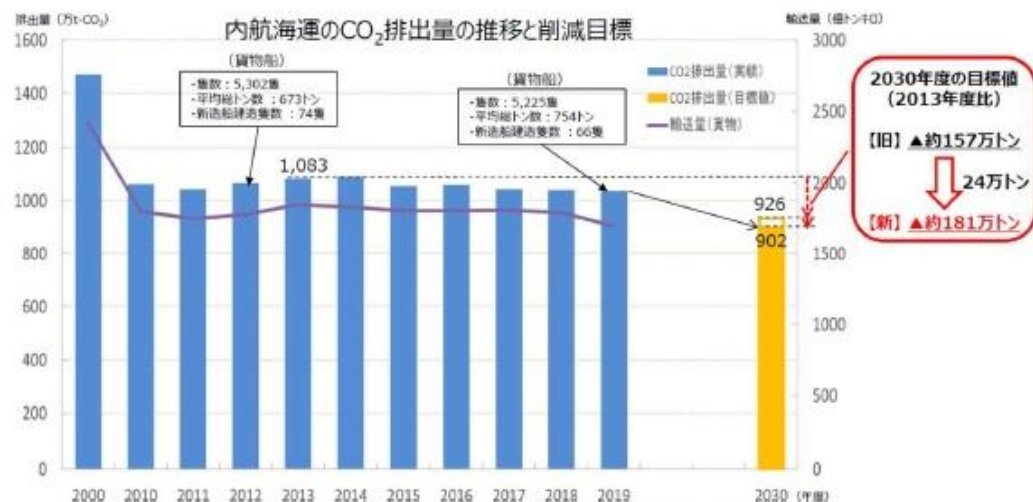
1. 目的

- ◆ ディーゼルエンジンをそのまま使用できるバイオ燃料は、中小船社が大多数を占める内航船業界のCN化を推進する重要な手段の一つである。内航取扱貨物量1位の苫小牧港において、バイオ燃料の供給実証を通じた普及促進を行うことで、我が国の内航船のCNに貢献する。
- ◆ 燃料調達、LTS（ローリーからバンカー船へ）、STS（バンカー船から船舶へ）という一連の流れを実施することで、既存アセットを活用したバイオ混合燃料供給の実現に向けて、各種法規制や安全性を確保した手順等を検証する。

2. バイオ燃料とは

- ◆ 食用油や、これらを調理使用した後に発生する廃油を原料とする燃料。
- ◆ バイオ燃料は植物由来の食用油を原料とするため燃焼してもCO2排出量はゼロカウントされる。
- ◆ 燃焼時、排気ガスの生成物（硫黄酸化生成物等）が低減されるため、大気汚染物質の削減にも寄与する。
- ◆ ディーゼルエンジンに改造を加えることなく使用可能なため、既存アセットを活用できる。
- ◆ 他の燃料と混合して使用可能。

▼内航海運のCO2排出量の推移と削減目標



▼バイオ燃料とは

